授業づくり研修講座　実践レポート

　座間市立西中学校　　氏名　小黒竜太

単元名　　第２学年　　「推論と対話で考えを広げる 」

実践のポイント（工夫）

・モラルジレンマの状況について考え、書くことで、生徒の思考の広がりをうながす。

 ・接続詞を意識的に使用することにより、論理的な文章が自然と書けるようにする。

実践内容

|  |
| --- |
|  授業の流れ（２/３） |
|  |  |  　 指導内容 |  指導のポイント |  |
|  導入 | 本日の目標の説明本日の内容の提示 | ・全員が話を聞けているか |
|  展開 | ・前回の授業で扱った「無理やり論理リレー」を、文章化する。・途中の接続詞を使うようにする。 | ・「双括型」の文章の特徴を押さえる。・どんなテーマの文章でも、切り口と書き方によって論理的な文章になり得ることを実感させる。 |
|  まとめ | ・次回に向けての意識づけ | ・ |
|  |

振り返り（成果や課題）

・論理的な文章を書ける生徒がほとんどであった。

・次回の授業へ生かされる内容だったか、検討する必要がある。。

／　推論と対話で考えを広げる　　　　　　　　　　(　　　　　)組　　氏名(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

　　『論理リレー』の一部を文章化しよう

　例　　雨が降ると、自分の勉強がはかどるのではないだろうか。 　→結論

　　　なぜならば、雨が降ったとき、行動すること限られてくるからだ。

例えば、外で遊ぶことができなくなるし、家の中で過ごす可能性が高くなる。

もちろん、家でもゲームなど、勉強以外のやることはたくさんあるだろう。

しかし、まず室内にいるということが、勉強をする第一歩となるのではないだろうか。

したがって、雨がふると、勉強がはかどると私は考える。　 →結論

 ※結論や主張(言いたいこと)を(　　　　　　　　　　　　)と(　　　　　　　　　　　)の**二か所**に

置く文章の構成を、「　　　　　　　　　　　　　」という。

　　**☆　「論理リレー」の一部を文章にしよう。なるへく途中にある「接続語」を使おう。**

(どうしても接続語に合わなければ、　　　　　で)消して続きを書こう。

なぜならば、

例えば、

もちろん、

しかし、

したがって、